

梅若研能会

十一月公演



写真：【清経】梅若万三郎 撮影：前島写真店

令和5年11月16日(木) 午後1時始 (開場12時)
於 セルリアンタワー能楽堂

CERULEAN TOWER Noh Theater
26-1 Sakuragaokacho.Shibuya-ku.Tokyo
Thursday 16 November 2023 Start 13:00 (door open 12:00)

セルリアンタワー能楽堂

セルリアンタワー能楽堂
〒150-8512
渋谷区桜丘町26-1 地下2階
TEL 03-3477-6412
渋谷駅から徒歩5分

入場料 (全席指定)

指定席A 6,500円 指定席B 5,500円

※学生席 (要学生証) 各席 2,500円引き

お問い合わせ、お申し込み

e+ (イープラス)

<https://eplus.jp/ath/word/69495>



カンフェティ TEL0120(240)540 (平日10:00-18:00)

<http://www.confetti-web.com/umeken>



公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03(3466)3041

〈メールアドレス〉 staff@umewakakennohkai.com

〈ホームページ〉 <http://www.umewakakennohkai.com>



YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中!



フェイスブックはじめました! 公演情報更新中!



次回予告

令和5年12月11日(土) 午後1時始 於 観世能楽堂

能「藤戸」シテ 長谷川晴彦

狂言「岡太夫」シテ 大藏彌太郎

能「融甕」シテ 加藤眞悟



写真：【苞山伏】野村万蔵 (写真提供：株式会社 萬狂喜)

能「清経替之型」みどころ講座

10月28日(土) 10:00~11:00
於・梅若万三郎家能舞台 (渋谷区西原1-4-2)

受講料 1,000円 (※研究会入場券購入者は無料)

講師 青木 一郎 (あおき いちろう)

昭和23年東京武蔵野市生まれ、故青木豊の長男。昭和47年梅若万三郎家入門。二世梅若万三郎及び三世梅若万三郎に師事。公益財団法人梅若研能会理事。日本能楽会会員(重要無形文化財総合認定保持者)、観世流準職分。昭和35年「猩々」にて初シテ。千代田区・武蔵野市など都内各地及び近郊で能の普及に努めている。



講師 青木 健一 (あおき けんいち)

昭和57年東京都武蔵野市生まれ、青木一郎の長男。平成17年東京藝術大学を卒業。三世梅若万三郎に師事。平成24年独立。武蔵野市、横浜市、長野県茅野市など都内を中心に精力的に能楽普及に努める。(公社)能楽協会会員、観世流準職分。



仕舞

松 玉

虫 鬘

伊藤 嘉章
中村 政裕

地謡

梅若 志長
加藤 眞悟
梅若万佐晴
古室 知也

舞囃子 葛 城

シテ 遠田 修

大鼓 佃 良勝
小鼓 田邊 恭資
太鼓 梶谷 英樹
笛 栗林 祐輔

地謡

梅若 紀佳
中村 裕
梅若 泰志
中村 裕
長谷川晴彦

(二時二十五分頃)

狂言 苞山伏

シテ(廻りの者) 野村 万蔵

アト(山 人) 野村万之丞
小アド(山 伏) 河野 佑紀

後見 若松 隆

休憩二十分

(二時十分頃)

能 清 経

ツレ(清経の妻) 青木 健一
シテ(平 清経) 青木 一郎

替之型

ワキ(淡津三郎) 野口 琢弘

大鼓 佃 良勝
小鼓 田邊 恭資

笛 栗林 祐輔

後見

梅若 泰志
梅若万三郎
加藤 眞悟

地謡

萩原 郁也
梅若 志長
梅若 紀佳
古室 知也
長谷川晴彦
伊藤 嘉章
八田 達弥
梅若 紀長

(終演予定 三時十五分)

演目の見どころ…

舞囃子 葛城 (かづらき)

羽黒山の山伏が葛城山に峰入りしたところ吹雪となり困り果てていると一人の女が現れ自らの庵に招き入れる。山伏が後夜の勤行を始めようとしたところ女が自らを三熱の苦しみ(熱風や熱砂で皮肉や骨髓を焼かれる、悪風が吹き起こって居所や衣飾などを失う、金翅鳥に子を食われる)の三つ。から救って欲しいと頼み、期限までに岩橋を掛けなかったために明王の戒めにより苦しんでいる葛城山の神と名のり消え失せる。

狂言 苞山伏 (つとやまぶし)

山奥で一人の樵が苞(わらで包んだ弁当)を傍らに置いて寝込んでいる。そこに葛城山(奈良県)での修業を終えた出羽・羽黒山の山伏が通りかかり、ここで疲れて眠ってしまう。

ここにお腹がすいた里人が現れ、苞の中の飯を食べてしまう。食べ終わると空の苞を山伏の枕元に置いて、タヌキ寝入りをする。“さて昼飯を盗み食したのは誰か?”と3人が喜劇を繰り広げるとい話だ。

山伏は超自然的な法力を持つとされていて、狂言の世界ではおなじみのキャラクターである。本狂言でも法力で犯人捜しをするというストーリーになっている。

能 清経替之型 (きよつねかえのかた)

平家一門が都落ちした後、都でひっそり暮らしていた平清経の妻のもとへ、九州から、家臣の淡津三郎(あわづのさぶろう)が訪ねて来ます。三郎は、清経が、豊前国柳が浦(北九州市門司区の海岸、山口県彦島の対岸)の沖合で入水したという悲報をもってやって来たのです。形見の品に、清経の遺髪を手渡された妻は、再会の約束を果たさなかった夫を恨み、悲嘆にくれます。そして、悲しみが増すからと、遺髪を宇佐八幡宮(現大分県北部の宇佐市)に返納してしまいます。

しかし、せめて夢で会えたらと願う妻の夢枕に、清経の霊が鎧姿で現れ、再会を喜ぶものの、妻は再会の約束を果たさなかった夫を責め、夫は遺髪を返納してしまった妻の薄情を恨み、互いを恨んでは涙します……。